

座間消防救助工作車参考資料

平成15年9月1日作成

救助工作車 型	車両データ
	車両メーカー 日野
	形式 KK-GD1JGDA 改
	全長 7・87M
	全幅 2・30M
	全高 3・30M
	乗車定員 6名
	擬装 テイセン



座間救助工作車のシャッターデザインについて
座間市の救助チームが手と手を取り合い、市民の生命と
財産を守ると言う事を考えたデザインである。



ドアのデザインは自分達の安全も考えるという意味で、全体の型を盾を
元に、職員命とも言えるロープ・カラビナ・市の花（ひまわり 黄色）
相模の国（相模川 青色）、消防の色（赤色）を元に考えたデ
ザインである。



クレーン（ヒアブ060-2）

標準ブーム長	7.1m
吊り上げ能力	2900kg
	(2m) ~ 850kg (6.8m)

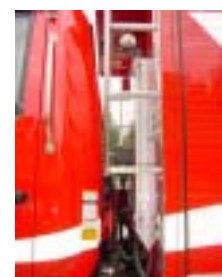


オートハイドレックス（超高压消火装置 UHP-250）

プランジャーポンプ	
吐出量	25 /min
水タンク容量	150
	(放水時間は約6分)
泡消火剤	AFFF3%
泡消火剤タンク容量	約 20
高压消火ホース長さ	50m



オートハイドレックスの積載を車両右下に限りなく最小限に
積載しその他の積載スペースを多くし、使用するオートハイ
ドレックスをコンパクトに収納した。



水タンク 150ℓ

フロント・ウインチ	ロッラー	
	常用	4 t
		(巻き数によって異なる)
	最大荷重	5 t
	ワイヤーロープ長さ	40 m
	使用角度	上下・左右25度



リヤ・ウインチ	WARN	
	常用	2 ~ 3 t
	最大荷重	3 t
	ワイヤーロープ長さ	30 m
	使用角度	15度



車両後部にバッテリー駆動のウインチを積載し、車両後方での重量物の排除等に活用する。

オートルーカス	作動油タンク容量	約5
	ホース長さ	20 m

車両から、20 mのホースを延長し油圧器具が、数点設定できる。



照明装置	湘南工作所	起伏角度	収納位置を0°として上向き180°
		旋回角度	収納位置を0°として右回り360°
		メタルハライドランプ	600 w × 4灯
		ハロゲンランプ	250 w × 2灯
		地上高	6 m



車両装備フック関係 フックに関しては、あらゆる災害の状況を考え車両全面から取れるようにし、全てに関して必要最低限の強度を持たせた。



ピンドルフック 車両前部
2箇所 3000kg



牽引フック 車両後部
2箇所 3000kg



後輪タイヤハウス内支点
左右各2箇所 500kg



車両上部ステンレス手摺り
左右2箇所 200kg



車両上部ロープフック
4箇所 200kg

車両庫内

車両積載庫内は、右側に火災活動に使用する資器材を積載し、左側には救助活動に使用する資器材を基本的に積載配置した。また庫内積載スペースを有効的に使用し、救助隊使用資器材（省令別表1・2を含む）約200品を積載した。



室内



バックトーク BA109A(大阪サイレン)
電子サイレンアンプ TSKmark-10(大阪サイレン)
10連スイッチ SBW-100(大阪サイレン)
ハイパーストロボ ST-15(大阪サイレン)
カッテ-プ-プレイヤー OS-21L(大阪サイレン)



助手席に呼吸器用クイックホルダーを装着し、災害活動時に助手席分隊長が容易に装着できるようにした。

車上



航空確認文字を記載し、アンプ後方スピーカーとは別に、回転台つき広報用スピーカーを取り付けた。

その他



車両右側に救助袋収納スペースを設け、災害に応じた救助袋を準備・活用する。



ラムファン積載庫を、特殊災害時などに使用出来るように多目的スペースと変更対応できるようにした。



助手席下スペースに、インバーターを設け各種資器材充填及びACからの資器材使用を可能にした。

サバイバースリ



収納スペースの有効利用とし、バスケット担架上部に



奥行きスペースのある収納スペースは2段式にし、奥にも収納スペースを設けた。



油圧器具の油圧発生装置(パワーユニット)の下部に車輪を取り付け、車両から現場が遠い際の搬送を考慮した。

車両から近い場合は、オートルーカスを使用する。



ロープの収納は、引き出し式としループ状に収納しても取りだし易くした。



手工具は引き出し式とし、取りだし易く配置した。



車両後方に、引き出し式サーチを設け後方での作業を考慮した。



庫内後部からの収納スペースを有効的に使用した。



三連梯子は、車上に手動式油圧ダンパーで積載し、かぎ付き梯子は三連横に配置した。



車両後部にバックトーク（会話装置）を取り付け車両外部との会話を可能にした。